

概念メタファーからみた空模様

—新聞記事を資料とした「雲」と「霧」の考察—

松浦 光

1. はじめに

日々変化する気象現象は、我々にとって身近な経験である。気象現象は、国や風土によって大きく変わり、その捉え方は多様である。現代日本語において、気象現象の捉え方が比喩表現に影響を与えている。

Lakoff and Johnson (1980) は、ある概念を形成する知識の総体を領域 (domain) とし、メタファーを領域間同士の写像として捉えた。身体的経験が豊かで具体的な起点領域 (Source domain) から身体的経験があまりない抽象的な目標領域 (Target domain) への概念領域間の体系的な写像関係は、「概念メタファー」と呼ばれる。この概念レベルのメタファーの体系から一貫性を持ったメタファー表現が生産され则认为られる。

気象現象における「雲」・「霧」は、発生する場所が異なるけれども、類似した自然現象である。そのため、その概念は、共に起点領域となり、抽象的な経験である状況を目標領域として写像される。「雲」・「霧」は、「政界を暗雲/霧が覆う」、「相場に暗雲/霧がかかる」など、比喩的に様々な状況を表すことができる。このように、我々が経験する様々な状況も、抽象的な経験として気象現象を通して捉

えられると考えられる。

気象現象の言語的概念を構成する要素がこれらの表現に影響を与えていることを主張する。本稿では、「雲」を中心に「霧」と比較しながら考察する。我々がどのように気象現象を捉え、状況を表現するのか実際の新聞記事の用例¹⁾から明らかにするのが本稿の目的である。

2. 先行研究の検討

2.1 気象現象と状況の理解

気象現象は、我々が様々な状況を表現するときに用いられる。尼ヶ崎 (1990:9) では、天気を用いて語る、景気に関する表現として以下を挙げている。

「景気はどうだい？」

「去年は土砂降りでしたが、今年は曇りのち晴れといったところです」

「一時はあまりよくなかったが今はよくなった」ことを「曇りのち晴れ」、「最悪の状況」のことを「土砂降り」と表すことは、同様の意味として対応しているわけではなく「曇りのち晴れ」には、一時の不安から脱した話し手の気分が、「土砂降り」には、同じくうちひしがれて惨めな気分が籠められており、単なる客観記述以上のものを伝えていると、尼ヶ崎は述べている。

また、Grady (1997) において、<< CIRCUMSTANCE ARE WEATHER >> (状況は天候) という概念メタファーが提示されている。その基盤として、天候の状態と我々の感情の状態や状況との相関関係を指摘している²⁾。

しかしながら、これらの研究で扱われている気象現象の用例は乏しく、その動機づけが明らかになっているとは言い難い。実際の用例をみると、今回取り上げる「雲」・「霧」をはじめ、様々な気象現象で状況が表わされている。

2.2 「雲」・「霧」の意味記述

ここでは、「雲」・「霧」の定義と意味について考える。気象現象としての「雲」・「霧」の定義について、気象庁(2007[1998]:50)によると、「雲は、微細な水の粒や水滴が集まり、空中に浮遊しているもので、地表面に接する場合には雲と言わず霧という」とある。つまり、「雲」と「霧」の現象としての違いは、発生する場所にあると考えられる。

次に、辞書における意味記述を確認する。『大辞林』第三版(2006)では、以下のよう記されている³⁾。

「雲」

① 空気中の水分が凝結して水滴・氷晶となり、これらが群れ集まって空中を浮遊しているもの。主として、気流の上昇に伴う断熱冷却により発生する。→雲級

② ①の位置や形状などからの比喩的用法。

⑦ 身分・地位がはるかに高いことのたとえ。「一の上の人」

①一面にひろがったり、たなびいたりしているものたとえ。「花の一鐘は上野か浅草か(芭蕉)／続虚栗」

②気持ちや表情などの晴れ晴れしないことのたとえ。「一晴れて身にうれへなき人の身ぞ／山家 雑」

⑤(火葬の煙を雲に見立てて)死ぬことのたとえ。「程もなく一となりぬる君なれど／新千載 哀傷」

(同上:733)

「霧」

①地表や水面の近くで水蒸気が凝結して無数の微小な水滴となり、浮遊している現象。発生場所によって海霧・山霧・盆地霧・川霧などに、また生因によって放射霧・移流霧・蒸気霧・前線霧などに分けられる。[季] 秋。[平安以後、秋のものを「霧」、春のものを「霞(かすみ)」と言い分ける風があった]→靄(もや)

②微小な水滴を空気中に細かく散るように飛ばしたものの。「一を吹いてアイロンをかける」

(同上:672)

ここから、水分の凝結である点で共通していることが分かる。しかし、「雲」には、比喩的用法に関する記述があり、「霧」には、その記述がない。要因としては、「雲」と「霧」の一般性の程度差が考えられる。「雲」は、「雨」と密接な係わりのある身近な経験であるが、「霧」は、ある特定の条件でしか経験できない限られた現象である。この経験の違いが意味の数の違いにも表れている。

2.3 気象現象を構成する要素

気象現象は、複数の言語的概念を構成

要素として持つ。そして、本稿で考察する<<状況は天候>>を形成する要素も多岐に渡る。本節では、その構成要素を辿っていくことにする。

まず、光と遮蔽物について挙げる。松浦(2013a,b)では、「晴れる」、「曇る」を取り上げ、気象現象を起点領域とし、精神現象である思考・感情を目標領域とするメタファー表現を考察した。大きな主張をまとめると、以下の4点に集約される。

・我々は、「{雲・霧}が晴れる」のように遮蔽物の「雲」・「霧」が消え、光の差し込む状態を「晴れる」と捉えている。また、「空が曇る」のように雲が覆って光を遮っている状態、「{窓ガラス・レンズ}が曇る」のように光を遮る遮蔽物の水蒸気が平面に付着している状態を「曇る」と捉えている。

・「晴れる」と「曇る」では、精神現象である目標領域における光の明るさや温かさに関する経験が感情へ、光によって見えることに関する経験が思考へと写像される。目標領域における光は、感情領域では、安心感や爽快感といった明るい感情、思考領域では、分かるといった思考に結び付く。

・遮蔽物は「雲」・「霧」の性質を有し、「正体がかめない」、「はっきりしない」、「持続性がある」、「蓄積する」などの性質を持つ。また、遮蔽物自体には「曇る」性質がないが、遮蔽物が付着して光が遮られた、好ましくない状態を「曇る」と捉える。

・光と闇は「白」と「黒」の二項対立関係を持つのに対し、気象現象では、「晴れ」と「雨」の中間の「曇り」が存在する。思考領域において、はっきりと判断できない中間の状態は、白黒判然としない「灰色」と見なされる。これが「晴れ」でも「雨」でもない「雲」・「霧」の状態として概念化される。

これらの研究では、「晴れる」と「曇る」において気象現象の言語的概念を構成する光と遮蔽物の存在がメタファー的意味の実現に影響を与えることを明らかにした。もちろん、これは、精神現象における「晴れる」と「曇る」の考察であって、他の気象現象や他の領域との関係には、言及してはいない。

次に、本稿では、気象現象の言語的概念の構成要素として、運動と移動物を挙げることにする。瀬戸(1995a)では、運動のメタファーの一種として、動きのメタファーを提示している。さらに、「動き」に「方向」が加われば、「動向」になることを挙げ、「動き」には、一定の「方向」が存在することを指摘している。政治の「動き」も、心の「動き」も、季節の「移り変わり」も、すべて一系のものであると瀬戸は述べている。

一方、Lakoff(1993)では、線と移動、力および人間の移動に関連した複合領域を起点領域とし、事象の生起や人間的営為を構造化した事象構造メタファー(Event Structure Metaphors)が提唱されている。これを基に、鍋島(2011)は、日本語におけるメタファー<<活動は移動>>を取り上げ、その一部として、<外部事象←大きな移動物>⁴⁾で「波」、「流

れ、「風」など、外的要因が自然環境に喩えられていることを指摘し、「波に乗る/流れに乗る」、「流れに逆らう」、「追い風を受ける」などを例に挙げている。

何を以って遮蔽物とするのか、移動物とするのかの判断は、どのように決まるだろうか。瀬戸(1995b)では、空間の構成要素として、「場所」と「方向」を挙げている。瀬戸によると、「場所」は、静的な空間を含意し、位置・形・延長(広がり)が問題となり、「方向」は、動的な空間を含意し、前後・左右・上下が問題になると述べている。さらに、「冬来たりなば春遠からじ」という例を挙げ、「冬」と「春」など季節が移動したり、方向付けを得たりする前に、言語的に「こと」を<<もの>>として捉えなければ成立しないことに言及している。

3. 考察

3.1 気象現象における遮蔽物と移動物

我々が、気象現象に関してどのような経験をして、どのような知識を持っているかを考察する。そこから、それぞれの気象現象に対する我々の捉え方を考えていく。

(1) 現在304メートル。早ければ3月下旬に東京タワー(333メートル)を追い越す。最近ではスカイツリーの先端を雲が覆う日もある。

(読売新聞 2010/03/07)

(2) 重い雲が垂れ込み、時折細かな雨が降るあいにくの天気となったものの、6月21日の豊中運動場は3万人の大観衆(主催者発表)で埋まった。

(毎日新聞 2013/06/08)

(3) 雲の中で視界がきかない標高2000メートル級の山間部で高度約1500メートルに降下するよう指示した管制官のミスは、一歩間違えば大惨事につながっていた。(読売新聞 2010/10/28)

(1)～(3)は、「雲」が遮蔽物として、特定の場所に留まっていることを表す。(1)では、「スカイツリーの先端」を「雲」が覆い、(2)では、「豊中運動場」に「雲」が垂れ込めている。

なお、(2)では、「重い雲」と表せるように質感・量感のあるものとして捉えられている。そして、「垂れ込める」という表現から、「雲」が上に留まりつつ、下へ領域を広げ、総体としてそこにあるものの領域を侵していることも指摘できる。

以上から、「雲」は、境界線の存在する<<もの>>としての側面も持つことが分かる。さらに、「細かな雨が降る」という表現から、「雲」は、「雨」の前兆であることも指摘できる。また、(3)「視界がきかない」とあるように、「雲」は、視界を遮る性質を持つ。視界を遮られている状態は、前を見通すことができない、好ましくない状態である。

(4) 温泉地として知られる大分県由布市湯布院町の由布院盆地で18日、4月としては珍しい朝霧が立ち込み、市街地がすっぽりと白く覆われた。

(読売新聞 2013/04/18)

(5) 5合目にある山梨県側の吉田口では、濃い霧が立ち込めて30メートル先も見えないような天候の中、登山者が午前中から列を成して登り始めた。

(日本経済新聞 2013/07/01)

一方、(4) から「霧」も、「覆う」という「雲」と似た性質を持つ遮蔽物であることが分かる。さらに、(5) からは、「濃い霧」が光を遮り、視界を悪くするものとして捉えられている。しかし、「霧」は、どこからどこまでがその領域なのか、広がりとは特定できず、境界線が不明瞭である。例えば、子どもに「雲」の絵を描くように指示を出せば難なく描くことができるが、「霧」は、形も境界線も把握しにくく描くことはできないだろう。ここから、「霧」は、<<もの>>化しにくく、存在する場所が問題となることが指摘できる。

いずれの場合も、遮蔽物が特定の場所に留まる状況は、好ましくない状態であり、視界にも影響を与える。これは、「雲」にも共通する性質である。

(6) 入賞の特典として、毎年入賞者の親子を広島に招待。この日の広島市は、所々に白い雲が浮かぶ青空。

(中日新聞 2009/08/07)

(7) 日本気象協会によると、21日は日本の南海上に前線が延び、全国的に雲が広がりやすくなる見通し。

(日本経済新聞 2012/05/20)

(6)、(7) からは、「雲」が広範囲の「広さ」を持っていることが分かる。(6) では、「広島市」の青空に「白い雲が浮かぶ」、(7) では、「全国的に雲が広がる」のようにその範囲は広い。

ここから、「雲」の範囲の「広さ」が指摘できる。一方、「霧」は、地表に存在することが多いので「広さ」は、主に知覚者の視界が範囲となる。むしろ、「霧」も、「霧が漂う」、「霧が流れる」のような移動に

関する表現も存在はするが、その広さは主に知覚者の視界の範囲でしかない。

(8) 気象庁天気相談所は「急な豪雨は注意報・警報に間に合わないこともある」。予報で『大気の状態が不安定』のコメントがあるときや、黒い雲が迫ってきた際は、浸水しそうな危険な場所には近づかないようにしてほしい」と話している。

(日本経済新聞 2010/08/14)

(9) 雨雲が通過する影響で、東海地方は十五日午後九時ごろから深夜にかけて、平野を中心に太雨が予想される。十六日朝までの二十四時間予想雨量は、三重県で一〇〇ミリ、愛知、岐阜県で八〇ミリ。

(中日新聞 2011/10/15)

(10) 午前中はうだるような暑さ。午後になると雲行きが怪しくなり、午後2時半ごろ雷鳴とともに豪雨が降りだした。

(毎日新聞 2010/07/10)

さらに、(8)～(10)では、「雲」の「動き」が位置変化と捉えられていることが分かる。「雲」は、「迫る」や「通過する」など大きな移動を伴い移動物としての性質を持つ。だが、この性質を「霧」は、範囲の「広さ」や移動の「大きさ」を有さないため持ちにくい。

また、「雲」の移動は、多く「雨」が伴う。これにより、(8)「黒い雲」が迫ってくると、急な「雨」が降る前兆であり、(9)「雨雲が通過する」と、その場所は「雨」が降り、(10)「雲行きが怪しく」と、「雨」など好ましくない変化が起こることが予測される。そして、「雲行き」という表現が存在することからも「雲」の「動き」と我々の予測との関係は密接であることが

分かる。

つまり、「雲」があることは、観察できるが、その移動は、コントロールできない。そして、「雲」が知覚者の方に近づくことは、好ましくない変化に巻き込まれる危険性がある。以上のように、我々は、「雲」の動きを観察することで、気象の状況を予測することはできるが、それを我々の力でコントロールできないという性質が指摘できる。

3.2 状況を表す遮蔽物と移動物

気象現象の様々な性質は、目標領域の状況に写像される。ここでは、遮蔽物と移動物がメタファーの意味に影響を与えていることを考察する。

(11) 暗く重い雲が日本の上空を覆っている。まず経済的状況。日本が特別悪いわけでもない——というより、元気だった中国経済まで変調をきたし世界全体が落ちこんでいる。東日本大震災もあった。そして、前々から言われている財政赤字や少子高齢化に伴う市場の縮小もいまだ改善のめどがない。

(毎日新聞 2011/12/18)

(12) 今の日本は出口のない閉塞(へいそく)感に覆われている、と言われます。原発や消費税、年金……、最近では岡山出身の芸人に端を発した生活保護など、山積する問題を先送りしている限り、雲が晴れることはありません。

(毎日新聞 2012/06/04)

(11)、(12)は、遮蔽物としての「雲」についての用例である。これらの「雲」は、光を遮る性質を持つ。(11)では、「経済

的状況」、「東日本大震災」、「財政赤字」、「少子高齢化に伴う市場の縮小」など様々な要因、(12)では、「原発」、「消費税」、「年金」、「生活保護」などの問題の「閉塞感」が「雲」として捉えられる。また、遮蔽物は、光を遮る性質を持つため「暗く」、蓄積する性質を持つため「重い」と表現されている。

そして、(11)「改善のめどがない」、(12)「出口のない」が示すように、遮蔽物が留まる状態は、「見通しがきかない」状況である。これは、遮蔽物が光を遮っている状態が、先や前を見通すことができないことを基盤とする。

(13) 選挙を意識しないで、景気対策の効果を算段することは不可能だ。これから少なくとも2カ月は視界不良。霧が晴れるまで、誰もリスクを取りたくない。

(日本経済新聞 2010/09/09)

(14) 現在の濃霧が晴れるかどうかは企業の行動次第。節約して身を縮めず、グローバルな革新を進めれば期待がある。

(中日新聞 2009/01/09)

対照的に、(13)、(14)は、遮蔽物としての「霧が晴れる」に関する用例である。(12)の「雲が晴れる」と比べると、範囲の「広さ」という点で違いが指摘できる。「霧」は、地表に近いという性質を持っているため直接視界に働きかけ、差し迫って「見通しがきかない状況」を表す。

よって、(13)では、「2カ月は視界不良」、と近い時間を表し、視界が遮られる状態は行動しにくい状況であり、「誰もリスクを取りたくない」となる。(14)「現在の濃霧」も、まさに差し迫った状況を

表し、「節約して身を縮めず」とあるように行動しにくい状況にある。

(15) 債券相場の先行きに暗雲が漂い始めている。政府の追加経済対策に伴って7月発行分から増額になった2～40年債の入札を無難に消化。

(日本経済新聞 2009/07/23)

(16) 衆院選で後退し、国政とのパイプまで失えば、支持者にとって自民の存在意義さえ薄れる。残り任期二年を切った石原知事の後を争う知事選にも暗雲がかかる。

(東京新聞 2009/07/14)

(17) 正副議長の選出を受け、猪瀬直樹知事も今後の都政運営の方針を述べた。安倍晋三政権の経済政策について「暗雲に覆われた日本列島に一筋の光が差し込んできた、というのが大方の実感」と評価したうえで「この光を確かな輝きにするため、安心、希望、成長の三つを軸に都政運営を行う」と話した。

(毎日新聞 2013/08/09)

(15)～(17)は、「暗雲」に関する用例である。これは、「明るい」、「暗い」で表わされる光との関係が指摘できる。(15)「債券相場の先行き」に「暗雲が漂い始めている」、(16)「知事選」に「暗雲がかかる」と捉えられている。これも、特定の場所に遮蔽物としての「暗雲」が留まっていて、「見通しがきかない」状況を表している。

そして、(17)のように、先行きに見通しがきくと、遮蔽物の「暗雲」から「一筋の光が差し込む」ことになる。この状況は、見通しがきき、視界が広がる。「光」は、何らかの異状況の好転のサインとし

て捉えられる。これは、「光」と「視覚」との関係からも指摘できる。

(18) 同派離脱中の安倍晋三首相も駆けつけ「日本を覆っていた黒雲が吹き飛んで明るい日差しがさしてきた。日本を取り戻す戦いは道半ばで清和会からも多くの候補者がある」と参院選での躍進に期待。総裁派閥の勢いは「脱派閥」を掲げる石破氏の目にどう映ったのだろうか。

(日本経済新聞 2013/05/14)

(19) 鉄鋼大手首脳は、足元の状況を「土砂降りを脱して薄日が差ししてきたが、先には黒い雲が立ち込めている状況」と例える。本格回復への道のりはまだ遠いようだ。

(東京新聞 2009/10/30)

(20) 名古屋商工会議所の高橋治朗会頭は二十三日の定例記者会見で、東日本大震災による名古屋地域の景気への影響について「真っ暗な土砂降りだ。明るくなる時期は後ろにズレるということだろう」と厳しい認識を示した。

(中日新聞 2011/03/24)

さらに、(18)～(20)の用例からも光と遮蔽物との関係が分かる。(18)「日本を覆っていた黒雲」が吹き飛んで、「明るい日差し」が差し込むことを見通しがきく状況で、好ましいことが起こる前兆だと捉えている。

一方、(19)、(20)は、「土砂降り」に関する用例である。(19)では、「鉄鋼大手首脳」にとって業績が好ましくない状態を「土砂降り」と捉え、そこに「薄日が差ししてきた」先に、「黒い雲が立ち込めている」と捉えている。(20)では、「雲」が登場せず、好ましくない状況を表す「真っ

暗な土砂降り」が留まる遮蔽物となって光を遮っている。それが消えることを見通しがきき、景気が良くなることを「明るくなる時期」と捉えている。

(21) 岩手の地域医療体制の将来は、深い霧がかかったまま、先がみえずにいる。

(毎日新聞 2009/05/31)

(22) 四国経済同友会の松田清宏代表幹事(JR四国会長)は「スマートフォンのヒットなど小さな明かりはあるが、大きく景気が上向く兆候が見いだせない。霧の中にいる感じ」と陰しい表情。

(読売新聞 2011/01/13)

(21)、(22)の「霧」の用例にも遮蔽物の性質は顕著に表れている。だが、「霧」の用例は、「雲」の用例と違い、形は表されにくい。これは、<<もの>>として捉えにくいからである。「霧」は、遮蔽物の存在する場所が多く問題になる。

(21)「地域医療体制の将来」に「深い霧」がかかっている。この状況も、「地域医療体制」という差し迫った緊急性を要する問題に「先がみえず」という表現から分かるように「見通しがきかない」状況である。また、(22)では、「景気が上向く」見通しが分からない状況を「霧の中」と捉えている。対照的に、景気の見通しに好ましい状況をもたらす「スマートフォンのヒットなど」は、「小さな明かり」として捉えられ、光と対応関係にあることが分かる。

(23) 参院選の大勝で、自民党が衆参とも巨太与党となり、原発の再稼働への動きが強まる雲行きになってきた。

(中日新聞 2013/08/07)

(24) テレビをつけると、レスリングの浜口父娘が現れた。オリンピック種目から消えるのではと心配されたレスリングが、無事残れそうな雲行きになってきたため、インタビューを受けているのだった。

(毎日新聞 2013/06/16)

(25) 安倍政権の経済政策アベノミクスが雲行き怪しい。異次元の金融緩和で盛り上がった市場も、肝心の成長戦略で失望が広がった。(東京新聞 2013/06/07)

(23)～(25)は、移動物としての雲に関する用例である。これは、「雲」の「動く」という性質に焦点が当たる。「雲」が「動く」には、「雲」が<<もの>>として捉えられないと、視覚の中では運動するものとして観察できない。また、通常、「雲」の「運動」は、「雨」などの変化を伴うものである。以上のように我々は、「雲」の「動き」からこれからこんな風になりそうだという予測を日常的に行っている。

(23)では、「自民党の原発再稼働への動き」が「雲行き」と捉えられている。(24)「レスリング」が「オリンピック種目に無事残れそうな動き」が「雲行き」と捉えられている。つまり、「雲行き」とは、「今後のなりゆき」のことである。「雲」が運動する方向は、我々ではコントロール不能で見守るしかない。

ゆえに、(24)「オリンピック種目に無事残れそうな動き」のような期待を表すことができる。また、不安が伴う場合、(25)「安倍政権の経済政策アベノミクスの動き」のように好ましくない変化が起こりそうな状況であることが「雲行き怪しい」と捉えられる。

4. まとめと今後の課題

本稿では、類似した気象現象「雲」・「霧」が状況を表すメタファー表現を考察した。そこから、光と遮蔽物、運動と移動物という気象現象における言語的概念の構成要素がメタファーの意味に影響を与えていることを明らかにした。

起点領域の身体経験から「雲」と「霧」は、状況領域においてその性質に違いが生じる。状況領域における遮蔽物・移動物の性質は以下の通りである。

遮蔽物＝光を遮ることで見通しがきかなくなる・特定の場所に留まる・知覚者の視覚に働きかける。

従って、遮蔽物は、好ましくない状況と結び付く。「雲」と「霧」は、遮蔽物としての性質を持つ。但し、「雲」は、上空に存在するのに対し、「霧」は、地表に近いという性質を持っているためより直接的に視界に働きかけ、差し迫っている状況や行動しにくい状況をもたらす。

移動物＝観察することができる・変化を伴う動きで巻き込む・知覚者には予測ができるが、コントロール不能。

従って、移動物は、今後のなりゆきと結び付く。「雲」は、範囲の「広さ」や移動の「大きさ」を有し、移動物としての性質を持つ。一方、「霧」は、境界線がはっきりせず、<<もの>>化しにくく、範囲も移動も知覚者の視界の範囲内であるため移動物としての性質は持ちにくい。

今後は、光り方や光の捉え方から光のメタファーにおける性質と「風」や「嵐」など現象自体が動きを有する気象現象との関係を明らかにしていきたい。このような表現を1つ1つ追っていくことで概念メタファーの全体像を解明していきたい。

注

1) 用例中の傍線は断りのないもの以外全て稿者に拠る。用例は、中日新聞・東京新聞・日本経済新聞・毎日新聞・読売新聞過去5年間の記事の中から収集した。(検索期間 2008年10月1日～2013年11月1日) 本稿は、「雲」と「霧」の言語使用の多寡をみるのではなく現代日本語の言語事実を通しての捉え方を対象とする。そのため、文学作品上の新規なメタファーを扱うわけではなく新聞記事を考察対象とし、説明として量的な数値は挙げない。例文番号は、全体を通しての通し番号を用いる。実線は、分析対象表現、点線は、分析対象表現以外の注目すべき箇所を示す。

2) 英文の概訳は、全て論者に拠る。

3) 「雲」の意味は、①～③に分類されているが、③は考察との関連性が低いため割愛する。なお、本稿では、「雲」の位置や形状などの性質から比喩的用法で状況を表すものを「霧」と比較することを目的とする。

4) 鍋島(2011:174)では、「これらが単独のメタファーなのか写像なのかは曖昧であり、個別に検証する必要がある」とある。本研究では、生産性の高さを踏まえて、概念レベルのメタファーと

して捉える。

参考文献

尼ヶ崎彬 (1990)『ことばと身体』勁草書房。

瀬戸賢一 (1995a)『メタファー思考』講談社。

瀬戸賢一 (1995b)『空間のレトリック』海鳴社。

谷口一美 (2003)『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』(英語学モノグラフシリーズ20) 研究社。

鄭基成 (2001)「お天気、飛行機、病人—経済はどのような隠喩で概念化されるのか?」『茨城大学人文学部紀要 コミュニケーション学科論集』10, 1-16, 茨城大学人文学部。

鍋島弘治朗 (2011)『日本語のメタファー』くろしお出版。

松浦光 (2013a)「気象現象とメタファーの一考察—精神における「晴れる」を中心に—」『言葉と文化』14, 113-127, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本言語文化専攻。

松浦光 (2013b)「「晴れる」と「曇る」のメタファー的意味の実現」『日本認知言語学会第14回大会予稿集』221-224。

粕山洋介 (2006)『日本語は人間をどう見ているか』研究社。

森雄一・高橋英光 編 (2013)『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版。

Grady, J. (1997) *Foundations of Meaning: Primary metaphors and primary scenes*. Ph.D. dissertation, University of California Berkeley.

Lakoff, George and Johnson, Mark (1980) *Metaphors We Live By*.

Chicago: University of Chicago Press.
(渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸 訳
(1986)『レトリックと人生』大修館書店)

Lakoff, George (1993) "The contemporary theory of metaphor." *Metaphor and Thought*, ed. by Ortony, A. Cambridge: Cambridge University Press.

参考資料

菊池勝弘 (2008)『雲と霧と雨の世界』成山堂書店。

気象庁 (2007 [1998])『気象観測の手引き』

松村明 編 (2006)『大辞林』第三版、三省堂。

用例出典

中日新聞・東京新聞記事データベース
サービス

日経テレコン21(日本経済新聞社)

毎索(毎日新聞社)

ヨミダス歴史館(読売新聞社)

付記

本稿は、第127回 表現学会東京例会(平成25年11月9日(土)、国立女子大学本館)における研究発表の一部に加筆・修正をほどこしたものである。発表時にいただいた貴重なご質問・ご助言に感謝申し上げます。また、査読者の方々からいただいたコメントに篤く御礼申し上げます。

(名古屋大学大学院生)